

# 畜産共進会出品牛の管理

## 一肝心な平素の心構え一

岡 秀 行

暑かった今年の夏も終わりを上げようとしていますが、来月になるといよいよ共進会シーズンに入ります。今年10月には県畜産共進会をはじめ4年に1度の中国連合畜産共進会を控えておりますので、出品予定者の方々は大変な労苦のことと思います。

ところで畜産共進会は畜産思想の向上をはかることは勿論ですが、出品牛の体型、資質（フェノタイプ）から飼育管理の適否を判断し、さらには種牝牛による改良の度合いを判断して、選択交配の指針にするところに意義があるものと思います。

このようなわけで、和牛及び乳牛の共進会は、審査員の人たちや一般農家の方々に対して、飼育者は自分の牛の体型資質そのものと、日常の飼養管理の状態を見てもらうということが本旨であって、共進会をま近にひかえての、にわか仕立をするすじ合のものではありません。

しかし自分の牛を少しでもよく見せたいと思うのは人情ですから、その意味で管理に当たるとくに心がけるべき点を2、3述べて見ましょう。

(1) 肉付き 乳牛でも和牛でも、肉付きをある程度よくして出品しなければなりません。肉牛以外の種牝牛は肉付きをよくしすぎて過肥の状態にすることは禁物です。以前は乳牛共進会の未經産牛の部には、飼い過ぎて肩の厚いものがかかり見受けられたものですが、再三の指摘によって、最近ではあまり見かけられないようになりました。しかし乳牛の経産牛においては、少なくとも胸囲が190 cm以上に飼い込んでおくことは必要と思います。

(2) 角 牛の角は飾りものだけに、その形をよくしたり、またツヤを出したいと思うのは人情です。しかし矯角するということは、角を矯めんとして牛を殺すという諺もあるように、にわか仕立てでは無理なことは勿論です。

和牛の角の形状、質は昔からやかましくいわれますが、乳牛においても角が長くてみにくい

感じのする場合には、先端をノコギリで一寸切ってナイフで程よくとがらし、その部分及びそれ以下をガラス片などで磨くように削ります。そしてツヤ出させるために動物性油脂を用い磨きをかけます。

(3) 蹄 牛のツメは少し早目に切り、調教を十分にしておいて、牛を落ち着かせるようにします。蹄の伸びすぎは、人間の爪が伸びているのと同じで、これほどみにくいことはありません。ですから、年3回程度の削蹄は必要ですが、共進会では牛を立たせたり、或は歩かせて見たりする関係上、肢勢とのにらみ合わせで削蹄にいつそう注意しなければなりません。

すなわち、前踏み、後踏み、あるいは膝や飛節が接近している肢勢はいけないので、削蹄師と相談して見ばえのするようにしたいものです。そのうえ、立たせ方についても気をつけますが、例えば背のたるんだ牛は、前後をつめて立たせるというように、いろいろ工夫すべきでしょう。

(4) 被毛 乳牛では被毛の状態をよく見せるために、一般的にバリカンなどを用いて毛刈します。以前は角の間の長毛を整理した程度ですが、最近では共進会の7~10日位前に、全身剃毛するようになりました。また全身剃毛しない場合には、頭や頸、背中、乳房部などの毛を短く刈って、十分に磨きをかけます。さらに尾房もよく洗って櫛をかけて、フサフサとしてやることも見ばえをよくします。和牛は一般的に毛刈はしませんが、やはりいらぬ毛は短くして、ワラズリして毛艶を出すことが必要です。

また、毛艶をよくするために、平常の被毛の手入れ以外に、油雑巾でふくとか、飼料としてアマニ粕や大豆粕を食べさせるとか、いろいろな方法がとられています。

つぎに、乳牛で気にかかるのは、臀部のシミですが、これは毎日寝ワラを十分に入れ、また

## 岡山畜産便り 1961.08

ときどき舎内を見回って排糞、その他のよごれを除去しておれば、白色部にシミがつくというようなことはありません。もしもシミがついたならば、早目にぬるま湯の石けん水をつくって、ていねいに洗ってやれば、それほど肌をいためなくてきれいになります。

(5) 心構え 以上申し上げたことは、いずれも小刀細工的なものであり、決してほめたやり方ではありません。ですから共進会への心構えとしては、平素の運動、手入れを怠らず、牛舎の構造に注意し、飼料給与に当ってはD・C・PとT・D・Nのバランスに留意して、乾草、青刈り飼料などの豊富な給与を怠らないようにすることが肝要であろうと思います。

(筆者・岡山県畜産専門技術員)